

『国際会議』に参加して(上)

一月もあと数日を残すばかりとなったある日、豪州から会議開催の案内が届いた。昨年の四月、米国WSFの年次総会(コロラド州・デンバー)で会ったジャネットからだ。

今年の七月三十一日から二週間、メルボルンで『国際女子体育連盟』(本部川豪州・ドンカスター)主催の会議があるという。この会議は世界各地で四年毎に開かれ、今年で十二回目になる。ジャネットはその大会委員長を務めている。会議の開催にあたり、数年前から各地の国際イベントでプレゼンテーションをしてきたという。世界のスポーツ事情を知るよい機会だと思い、私も参加することにした。

「時代の変化とともに躍進する女性たち」(『Women Moving Ahead in Changing Times』)。今回の会議のテーマである。「体育教育」「レクリエーション」「スポーツ医科学」などの六つの分野で、それぞれの問題点を話しあい、解決方法を探していく。

みな、それぞれに自分のテーマを持ち関心のあるセッションに参加する。スピ



▲会議のシンボルマーク

ーカーの話が終わると質問をしたり、参加者同士で情報交換をしたりと、積極的に活動していた。ただそんな中でちよびり気になったのは、日本からの参加者たちのことだった。

今回の会議には、二十七カ国、約三百五十人(うち七十人は男性)の参加者があった。日本は女性ばかり、約八十人もの『大デレゲーション』。開催国を除けば最大の参加数である。体育教師や社会体育の指導者が殆どで、デモンストレーションとして参加する『ダンスパフォーマンス』だけが関心の大部分を占めていたようだ。

自分たちの出番が終わってしまうと日本人同士でかたまってしまう、あまりほかの国の人たちと交流を持つとしない。セッション会場でもあまり日本人を見かけることがなかった。言葉の問題があるのかもしれないが、もう少し自分たちの専門分野以外にも、関心をもってほしいと思った。色々な国の人たちと交流できる、絶好のチャンスなのだから。日本の代表の一人として参加しているのだから。

次の会議は一九九七年七月、フィリピンで開催される。その時はどんな人たちが参加するのだろうか。
(高橋昭子・WSFジャパン事務局長)

女性スポーツを応援しています。



スポーツビジネス総合シンクタンク

SPORTS 21®